



## 2019年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2018年10月31日

上場会社名 ヲタカフーズ株式会社  
 コード番号 2806 URL <http://www.yutakafoods.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 業務部長  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名

(氏名) 橋本 淳  
 (氏名) 岸本 一人  
 配当支払開始予定日 2018年12月4日  
 TEL 0569-72-1231

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	10,668	0.8	582	36.3	655	34.0	621	86.7
2018年3月期第2四半期	10,585	5.9	427	22.4	489	18.8	333	22.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	89.46	
2018年3月期第2四半期	47.93	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	22,579	19,376	85.8	2,788.65
2018年3月期	22,470	19,151	85.2	2,756.22

(参考)自己資本 2019年3月期第2四半期 19,376百万円 2018年3月期 19,151百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		20.00		20.00	40.00
2019年3月期		20.00			
2019年3月期(予想)				20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,300	0.5	1,170	18.8	1,290	18.4	1,050	64.1	151.11

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	8,832,311 株	2018年3月期	8,832,311 株
期末自己株式数	2019年3月期2Q	1,883,805 株	2018年3月期	1,883,805 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	6,948,506 株	2018年3月期2Q	6,948,622 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益及び設備投資には底堅さが見られ、雇用・所得環境の改善傾向が続く中、個人消費は足踏みが見られましたが総じて緩やかな景気回復基調が続きました。しかし、全国各地で記録的な豪雨・猛暑等が少なからず景気に影響を与え、さらに米国の保護主義への傾斜やそれに伴う貿易摩擦の激化へのリスクの高まりと金融資本市場の変動の影響が懸念され、今後の動向は依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、食の安心・安全に対する関心が一層高まるとともに、原材料価格の上昇が依然続く状況にあり厳しい経営環境が継続しております。

このような状況の中で、当第2四半期累計期間の売上高は10,668百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は582百万円（前年同期比36.3%増）、経常利益は655百万円（前年同期比34.0%増）、四半期純利益は投資有価証券の一部を売却したことに伴い投資有価証券売却益231百万円を計上したこと等により621百万円（前年同期比86.7%増）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

液体調味食品部門は、鰻のシラスの漁獲が細る中、今年は不漁の為、うなぎのたれの市販用・業務用のどちらも売上が減少したことにより、売上高は2,046百万円（前年同期比4.0%減）、セグメント利益は215百万円（前年同期比22.1%減）となりました。

粉粒体食品部門は、粉末スープの受託が伸び悩み、売上高は2,099百万円（前年同期比5.3%減）、セグメント利益は29百万円（前年同期比198.0%増）となりました。

チルド食品部門は、受託がほぼ前年並みに推移し、売上高は1,568百万円（前年同期比0.4%増）、セグメント利益は162百万円（前年同期比12.2%減）となりました。

即席麺部門は、大型のカップ麺の受託が順調に推移し、売上高は4,197百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント利益は164百万円（前年同期は58百万円のセグメント損失）となりました。

その他は、水産物の取扱量が若干増加し、売上高は755百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益は10百万円（前年同期比27.4%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

第2四半期会計期間末における資産の部は22,579百万円となり、前事業年度末と比べ108百万円増加しました。これは主に、流動資産において現金及び預金が1,049百万円増加し、売掛金が278百万円、固定資産において投資有価証券が477百万円減少したことによるものであります。

負債の部は3,202百万円となり、前事業年度末と比べ116百万円減少しました。これは主に、流動負債において買掛金が235百万円減少し、未払法人税等が121百万円増加したことによるものであります。

純資産の部は19,376百万円となり、前事業年度末と比べ225百万円増加しました。これは、利益剰余金が482百万円増加し、その他有価証券評価差額金が257百万円減少したことによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は6,836百万円となり、前年同期と比べ1,375百万円（25.2%）の増加となりました。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動により得られた資金は957百万円となり、前年同期と比べ215百万円（29.0%）の増加となりました。主な要因は、税引前四半期純利益887百万円、減価償却費294百万円による資金の増加と仕入債務の減少235百万円による資金の減少であります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動により得られた資金は170百万円（前年同期は1,066百万円の使用）となりました。主な要因は、投資有価証券の売却による収入340百万円と有形固定資産の取得による支出109百万円であります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は138百万円となり、前年同期と比べ0百万円（0.0%）の支出増となりました。なお、財務活動による支出は、配当金の支払によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年10月19日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更ありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,071	7,120
売掛金	2,334	2,056
商品及び製品	442	428
仕掛品	30	29
原材料及び貯蔵品	288	276
関係会社短期貸付金	5,500	5,500
その他	17	15
貸倒引当金	△7	△7
流動資産合計	14,677	15,420
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,945	1,890
機械及び装置（純額）	1,721	1,612
その他（純額）	1,111	1,131
有形固定資産合計	4,778	4,634
無形固定資産	20	16
投資その他の資産		
投資有価証券	2,856	2,379
その他	137	128
投資その他の資産合計	2,994	2,508
固定資産合計	7,793	7,159
資産合計	22,470	22,579

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,567	1,331
未払法人税等	178	299
賞与引当金	183	191
役員賞与引当金	5	2
その他	431	531
流動負債合計	2,365	2,355
固定負債		
繰延税金負債	227	106
退職給付引当金	712	726
役員退職慰労引当金	12	13
固定負債合計	953	846
負債合計	3,318	3,202
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,160	1,160
資本剰余金	1,160	1,160
利益剰余金	19,014	19,497
自己株式	△3,456	△3,456
株主資本合計	17,879	18,361
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,272	1,015
評価・換算差額等合計	1,272	1,015
純資産合計	19,151	19,376
負債純資産合計	22,470	22,579

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	10,585	10,668
売上原価	9,608	9,566
売上総利益	976	1,101
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	170	168
賞与引当金繰入額	27	25
役員賞与引当金繰入額	2	2
退職給付費用	18	17
役員退職慰労引当金繰入額	1	1
その他	328	303
販売費及び一般管理費合計	549	519
営業利益	427	582
営業外収益		
受取利息	12	12
受取配当金	33	39
雑収入	21	23
営業外収益合計	66	75
営業外費用		
賃貸費用	3	2
雑支出	0	0
営業外費用合計	4	2
経常利益	489	655
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	—	231
特別利益合計	0	231
特別損失		
固定資産除売却損	7	0
固定資産撤去費用	1	—
特別損失合計	8	0
税引前四半期純利益	480	887
法人税、住民税及び事業税	157	275
法人税等調整額	△10	△9
法人税等合計	147	265
四半期純利益	333	621

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	480	887
減価償却費	326	294
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	7	8
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△13	△3
退職給付引当金の増減額(△は減少)	35	13
前払年金費用の増減額(△は増加)	7	4
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△20	0
有形固定資産売却損益(△は益)	6	△0
有形固定資産除却損	1	0
有形固定資産撤去費用	1	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△231
受取利息及び受取配当金	△45	△52
売上債権の増減額(△は増加)	10	278
たな卸資産の増減額(△は増加)	△52	26
仕入債務の増減額(△は減少)	11	△235
未払消費税等の増減額(△は減少)	△17	87
長期前払費用の増減額(△は増加)	5	5
その他の流動資産の増減額(△は増加)	0	1
その他の流動負債の増減額(△は減少)	8	△22
小計	753	1,062
利息及び配当金の受取額	45	52
法人税等の支払額	△56	△157
営業活動によるキャッシュ・フロー	742	957
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△199	△196
定期預金の払戻による収入	139	136
有形固定資産の取得による支出	△1,001	△109
有形固定資産の売却による収入	6	0
有形固定資産の除却による支出	△15	—
投資有価証券の売却による収入	—	340
その他の支出	△1	△1
その他の収入	5	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,066	170
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△138	△138
自己株式の純増減額(△は増加)	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△138	△138
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△463	989
現金及び現金同等物の期首残高	5,924	5,847
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,460	6,836



(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(たな卸資産の評価方法の変更)

当社における、製品及び仕掛品の評価方法は、従来、総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用していましたが、第1四半期会計期間より、移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。

この評価方法の変更は、たな卸資産の評価及び期間損益計算をより適切かつ迅速に行うことを目的としたものであります。

なお、当該会計方針の変更は、過去の期間に与える影響が軽微であるため、遡及適用しておりません。

また、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計 (注)2
	液体調味 食品	粉粒体食品	チルド食品	即席麺	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,132	2,217	1,561	3,920	9,832	753	10,585
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,132	2,217	1,561	3,920	9,832	753	10,585
セグメント利益又は損失(△)	276	9	185	△58	412	14	427

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品(冷凍魚ほか)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計 (注)2
	液体調味 食品	粉粒体食品	チルド食品	即席麺	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,046	2,099	1,568	4,197	9,912	755	10,668
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,046	2,099	1,568	4,197	9,912	755	10,668
セグメント利益	215	29	162	164	572	10	582

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品(冷凍魚ほか)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。